

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	法学研究科
大項目	9 教育研究等環境 (研究科)
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 昼夜開講制下における学生の勉学・研究を支援するために、資料室の開室時間延長をはじめとする学生の文献資料へのアクセスの改善を図る。	→「資料室の開室時間ないし資料室の利用可能時間」「資料室の利用者数(時間帯別の利用者数を含む)」「学生による資料室利用支援方法の検討およびその進捗状況」	B	B			
2. 学生の実践的な教育能力および研究能力を向上させるために、TA(教学補佐)の授業・教育支援業務への活用、およびRAの雇用拡大と研究補助業務への活用を検討する。	→「TAおよびRA業務の内容」「TAおよびRA業務に対する学生および教員のニーズについての調査」「TAおよびRA業務の拡大方法についての検討の進捗状況」	B	B			
3. 研究活性化を目的とする外部資金獲得のための研究科内の情報共有体制を整備する。	→「外部資金取得状況」「外部資金情報の共有化および共同研究の実施のための検討の進捗状況」	C	C			
4. 全学と歩調を併せて、法学研究科に固有の研究倫理項目を検討し公表する。	「法学部・法学研究科倫理委員会(仮称)の設置を含めた研究倫理審査体制のあり方に関する検討の進捗状況」	C	C			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目9.0.4	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。 (説明) 法学部資料室の開室時間については、2009年度に教員の資料室書庫への入室を24時間可能としたのに続き、2010年度秋学期(後期)より、資料室の設置されている法学部本館への入室管理を厳格化することにより、学生も24時間利用可能となった。
☆	
その他	

《評価指標データ》

専任教員の研究費（実績）【大学基礎データ】
 専任の研究旅費【大学基礎データ】
 学内共同研究費【大学基礎データ】
 教員研究費内訳【大学基礎データ】
 科研費の申請・採択件数【大学基礎データ】
 学外からの研究費の総額と一人当たりの額【大学基礎データ】
 外部資金等導入状況【基本的な指標データ】
 教員の研究室の整備状況【大学基礎データ】
 学部、研究科ごとの講義室、演習室の面積・規模【大学基礎データ】
 学部、研究科ごとの学生用実験・実習室の面積・規【大学基礎データ】
 学部、研究科ごとの規模別講義室・演習室使用状況【大学基礎データ】
 留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況【基本的な指標データ】

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目9.0.4	
	その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目9.0.4	
	その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目9.0.4	
	その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目9.0.4	
	その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○資料室の開室時間が24時間になり、学生にとって利用が便利になりました。外部資金獲得や研究倫理に係る環境整備については、更に着実に取り組むことが望まれます。

【学内委員】

○院生の書庫の利用を24時間可能にしたことは一歩前進であり評価できます。利用状況などについても記述してさらなる前進を図ることが期待されます。TAについてはアカデミックな分野への就職に関連した検討があっても良いと思われます。

○資料室の24時間開室については、2009年度の教員に引き続き2010年度には学生も可能となったことは評価できます。ただし、前年度の学内第三者評価においても提案されていたように、開室延長効果の把握・分析が望まれます。

○取組みが進捗中と判断されます。

○教育研究環境、条件について、その他の記述はありませんか。要素や大学基準協会の留意事項などを参考にしてください。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・資料室の開室延長効果はないのでしょうか。効果が上がっている事項の記述が望まれます。

・2006年度の認証評価において資料室の開室時間について「助言」を受けましたが、改善が図られています。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目9.0.4

基盤評価：「専任教員に対して、研究活動に必要な研究費を支給している」「専任教員に対する研究室を整備している」

○小項目9.0.4&9.0.5

達成度評価：「教育研究を支援する環境や条件が、その整備・運用状況等から見て、方針に沿い、適切である。その際、下記事項については、当該大学の特質に応じて、適切な配慮を行っている。

- ・研究専念時間の設定など、教員の研究機会の保障
- ・ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）等の人的支援
- ・研究倫理に関する規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 開室延長効果については、大学院生から肯定的に捉えられているし、教員からも同様の評価を得ている。